

編集後記

アイザック・アシモフが面白い。ゲド戦記の原作者であるアーシユラ・K・ル・グイン以上に人気があるSF界の巨匠である。アシモフはその作品中（フィクション、ノンフィクション共に）でたびたび核融合やエネルギー問題について言及しているが、とりわけ「神々自身」という作品が秀逸である。

ある日、ハラムという放射線科学者が何気なくおいていたタングステン186（つまり普通のタングステン）がいつのまにかプルトニウム186に変化していた。この原子は陽子94個のプルトニウムなのだが中性子が92個しかないために不安定であり、徐々に陽電子を放射していく。

プルトニウム186は別の物理法則を持っている並行宇宙との物質交換により入手される。並行宇宙では強い相互作用がこちらの宇宙の100倍程度であり、少ない中性子で原子核をまとめることができる。そこではプルトニウム186はこちらのタングステン186と同様に安定な物質である。したがって、こちらでは陽電子、向こうではマイナス電子が手に入る。ハラムは物質の交換とエネルギーの生産を可能にする電子ポンプを開発し（実は並行宇宙人に教唆されたのだが）、人類にコストゼロ、公害ゼロの無尽蔵

のエネルギー源がもたらされた。

しかし、若き物理学者ラモントは電子ポンプの致命的な欠陥を発見する。並行宇宙との物質交換を行うときにその物理法則も浸透してくるということと、そのために「強い相互作用」がわずかでも強くなれば数年後には太陽における核融合反応が進んで超新星爆発を起こすということ。ポンプの即時停止を求めて行動を起こすラモントだが、どこに掛け合っても相手にされず、その意見は封殺される。

一方、ハラムのために一度は学者生活を断念させられたデニソンは、ポンプを強制的に廃棄させることは不可能であることを鋭い洞察力で見抜いていた。彼は月面上の陽子加速器を使用してラモントの理論を実証するとともに、別の素晴らしいアイデアによりすべての問題を解決に導く。

筆者がこの作品を読んで程なくアシモフは鬼籍に入った。科学によってもたらされた問題をさらなる科学の進歩によって解決する。科学を盲目的に批判するのが流行していた当時の風潮の中で、非常に感銘を受けた作品である。

（岩切宏友）

プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副 会 長	藤原 正巳	松田慎三郎	常務理事	岡村 昇一（総務委員長）
理 事	秋山 秀典 尾崎 章（財務委員長） 佐野 史道 畑山 明聖 森 雅博（広報委員長）		今井 剛 際本 泰士（広告委員長） 田中 和夫（編集委員長） 浜口 智志（出版委員長） 吉田 善章 藤山 寛		奥野 健二（プログラム委員長） 佐藤浩之助（企画委員長） 畠山 力三 本島 修	
監 事	長谷川 満					

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 田中和夫（阪大）

エディター 関子秀樹（九大）、関 昌弘（RIST）、田中雅慶（九大）、福山 淳（京大）、村上匡且（阪大）、行村 建（同志社大）

編集委員 荒巻光利（名大院工）、飯塚 哲（東北大院工）、石黒静児（核融合研）、岩尾 徹（武蔵工大）、岩切宏友（九大応力研）、上田良夫（阪大院工）、越智義浩（原子力機構）、片沼伊佐夫（筑波大プラズマ）、門 信一郎（東大高温プラズマ）、加藤太治（核融合研）、北島純男（東北大院工）、北野勝久（阪大院工）、小口治久（産総研）、佐伯絏一（静大理）、重森啓介（阪大レーザー研）、洲 亘（原子力機構）、妹尾和威（核融合研）、高橋栄一（産総研）、高山有道（核融合研）、谷口和成（京都教育大）、永岡賢一（核融合研）、長崎百伸（京大エネ理研）、野崎智洋（東工大院）、平松美根男（名城大理工）、増崎 貴（核融合研）、山内有二（北大院工）、山本 巧（原子力機構）

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第82巻第9号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/

印刷 株式会社荒川印刷

2006年（平成18年）9月25日

定価1,365円（本体1,300円）

本誌に掲載された寄稿等の著作権は（社）プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。